多機関連携を考えるワークショップ

用意するもの　大きめのふせん２色（例：黄と青）、発表用紙（1人1枚、A3コピー用紙で可）

１　目的

ヤングケアラーを早期に把握して支援につなぐためには、福祉、介護、医療、教育等に係る関係機関・団体が個別に機能するだけではなく、お互いの業務を理解した上で連携して取り組むことが重要である。

そこで、グループワークを通じて、自所属によるヤングケアラー支援の取組可能性や、他所属・他機関との協力・連携の重要性を考える。

２　方法

（１）自所属で取り組めることの整理【個人ワーク】

ヤングケアラー支援に関して、自所属で取り組めそうなことについて、青色ふせんに記載してください。（目標：5個以上（思いつくまま、たくさん））

＜考えるヒント＞

・事前の研修動画、市町村モデル事業の取組紹介などを思い出しながら・・・

・参加者自身の所属における担当業務・所管業務や、これまでの経験を踏まえると・・・

・もし、自分がヤングケアラーと思われる子ども・家庭を見つけたら・・・

・もっとヤングケアラー支援の輪を広げるためには・・・

例えば・・・

・個別ケースへの相談対応

・ヤングケアラーへの学習支援

・研修会の場所確保

・○○分野の関係機関への周知啓発　　など

（２）他所属や他機関に取り組んで欲しいことの整理【個人ワーク】

ヤングケアラー支援に関して、自所属で取り組むことが難しく、他所属・他機関に協力を依頼したいことを、黄色ふせんに記載してください。（目標：1～2個を厳選（時間の都合上））

＜考えるヒント＞

・基本的には、（１）を思い浮かべつつ、自所属では手の届きにくい部分を考える。

例えば・・・

・個別ケースの見守り

・ヤングケアラーへのヘルパー派遣

・研修会の講師

・△△分野の関係機関への周知啓発　　など

（３）自己紹介【グループワーク】

所属、名前、所属の所管業務、自分の担当業務など

（４）マッチング作業【グループワーク】

① １人目が、「他所属等に取り組んで欲しいこと（黄色ふせん）」を説明し、発表用紙に貼る。

② グループメンバーで、①の希望に応えられる「自所属で取り組めること（青色ふせん）」があれば、黄色ふせんのそばに貼る。

③ 2人目以降も同様に①②を繰り返す。同じ内容の「黄色ふせん」は、くっつけて貼る。

④ 全員の黄色ふせんが終了後、各自の手元に残った「青色ふせん」の内容を紹介する。

⑤ 「黄色ふせん」のうち、マッチングしなかった内容（「青色ふせん」がなかった内容）があれば、グループで対応方法を検討してみる。

⑥ マッチング作業の感想、研修全体の感想を共有する。

（５）発表【グループワーク】

マッチング作業の結果概要を説明する。

（発表例）

・どんなニーズ（黄色）があって、どんな所属・機関による対応（青色）がマッチしたか

・マッチングしなかったニーズ（黄色）は何か

・グループ内で出た感想の概要

３　進行時間の目安

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （１）自所属で取り組めることの整理 | | ５分 |
| （２）他所属や他機関に取り組んで欲しいことの整理 | | ３分 |
| （３）自己紹介 | | ６分 |
| （４）マッチング作業 | | １５～３０分 ※ |
| （５）発表 | 準備 | ５分 |
| 発表 | 各G１～２分ずつ |
| 合計 | | ４５～６０分程度 |

※　2024年度の地区別研修では、「（４）マッチング作業」の所要時間を１５分と設定しましたが、一部の参加者から「時間が短かった」との意見がありました。

参加者に対して「どこまで進みましたか？」などと声掛けし、各グループの進捗状況を確認しながら、柔軟に時間調整したほうがよいでしょう。